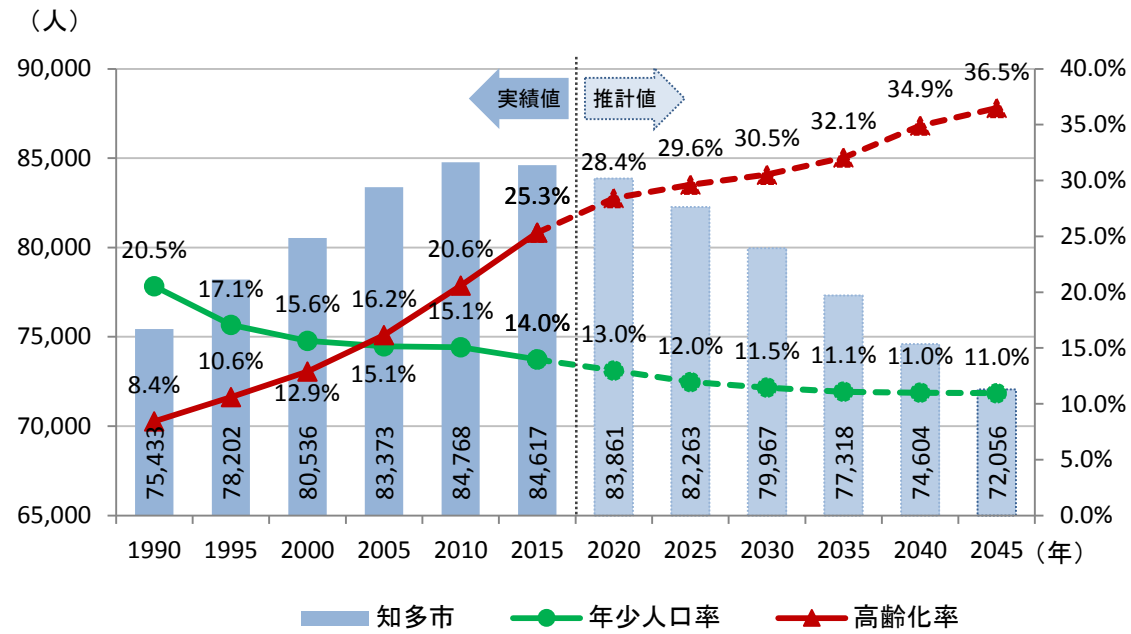


統計データ分析

■人口の推移・将来推計

知多市の人口は、2010年を境に減少に転じ2015年は84,617人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後も人口減少は続き、2045年には2015年から約13千人減の72,056人になると予測されている。また、高齢化も進んでおり、2015年の高齢化率は25.3%、2045年には36.5%に達すると予測されている。

【知多市の人口の推移】

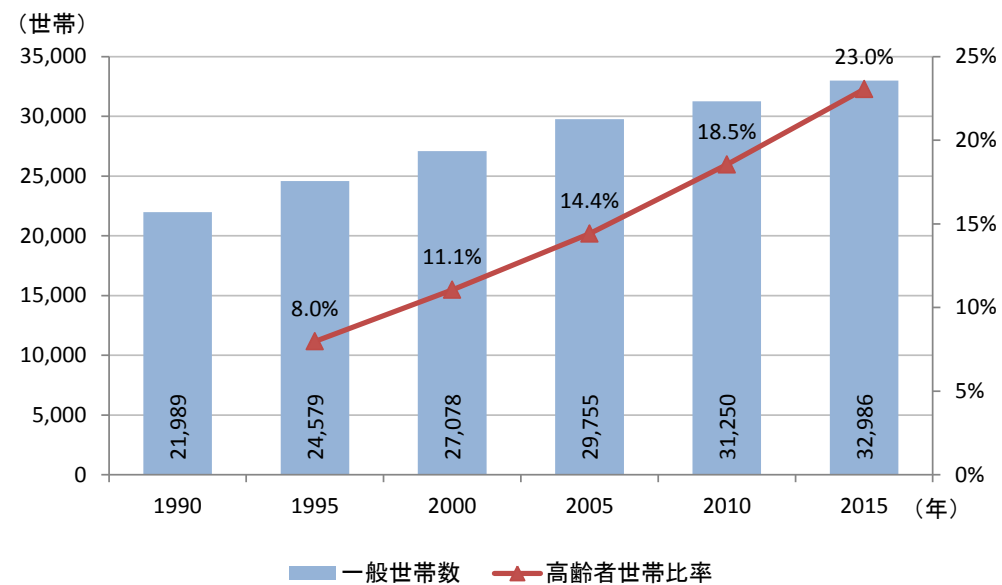


出典：国勢調査（総務省）、将来推計人口・世帯数（国立社会保障・人口問題研究所）

■世帯数の推移

知多市の一般世帯数は増加が続き、1990年の21,989世帯から2015年には約1.5倍の32,986世帯となっている。また、高齢化の進展に伴い、高齢者世帯も増加しており、一般世帯に占める割合は2015年で23.0%となっている。

【知多市の世帯数の推移】



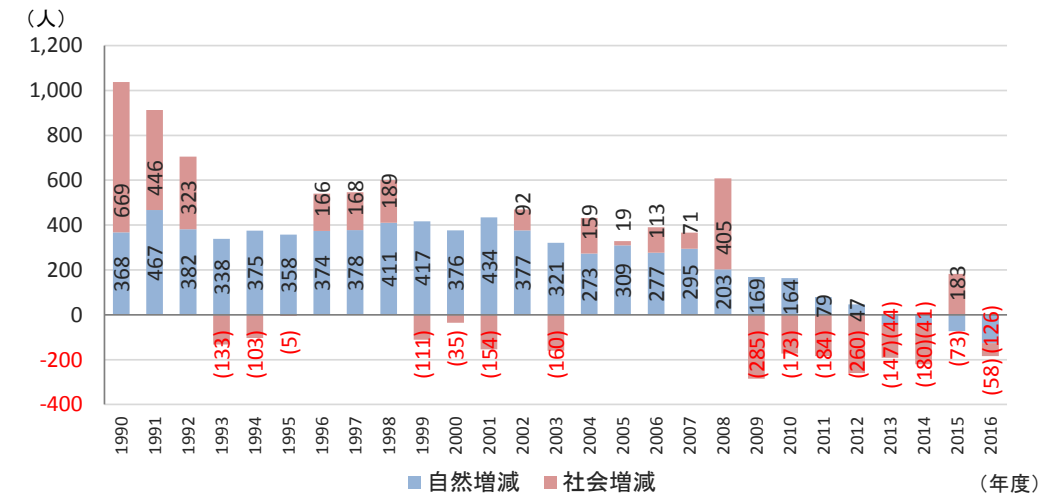
※高齢者世帯比率：一般世帯数に占める世帯主65歳以上の夫婦のみ世帯、単独世帯の割合

出典：国勢調査（総務省）

■人口の自然増減・社会増減

知多市の人口の自然増減をみると、2013年より44人減の自然減に転じ、2016年には126人減と拡大傾向にある。人口の社会増減は、2000年代前半までは、1992年のバブル経済崩壊や2000年初頭のバブル経済崩壊など不況時に転出超過に転じているものの、概ね転入超過であった。しかし、2008年のいわゆるリーマンショックの影響から転出超に転じて以降、転出超の状況が続いている。

【知多市人口の自然増減・社会増減】

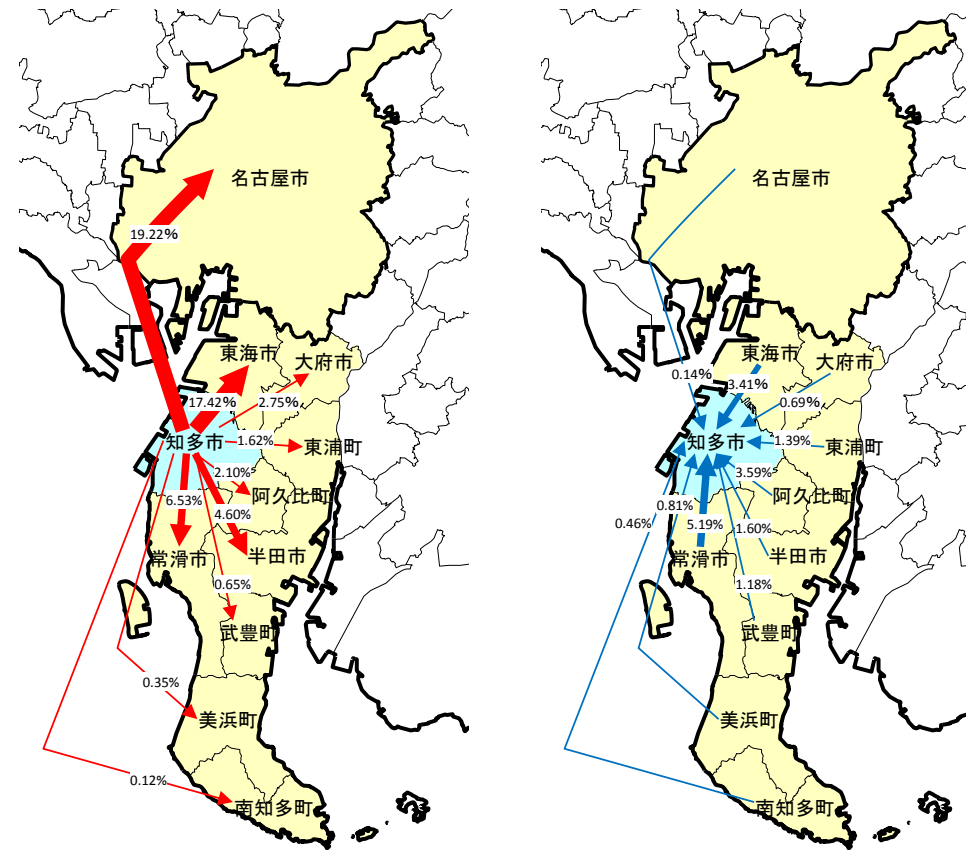


出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省統計局）

■通勤・通学流動（2015年）

知多市で暮らす15歳以上の通勤・通学人口の40.50%が市内で通勤・通学している。他市町村へ通勤・通学する割合は、名古屋市が19.22%と最も高く、次いで東海市の17.42%、常滑市の6.53%となっている。一方、他市町村から知多市へ通勤・通学する割合は、常滑市が5.19%と最も高く、阿久比町（3.59%）、東海市（3.41%）と続く。

【知多市の通勤・通学流動（2015年）】（左図：流出 右図：流入）

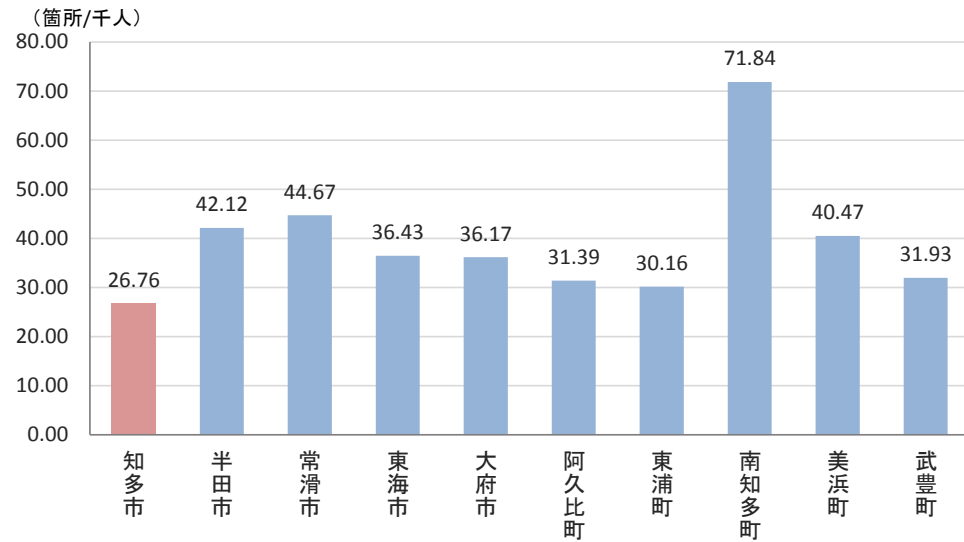


出典：国勢調査（総務省）

■事業所

知多市の人口1,000人あたりの事業所数は、26.76箇所と知多5市5町の中で最も低く、市民の雇用の受け皿が非常に少ない状況にある。

【人口1,000人あたり事業所数（2014年）】

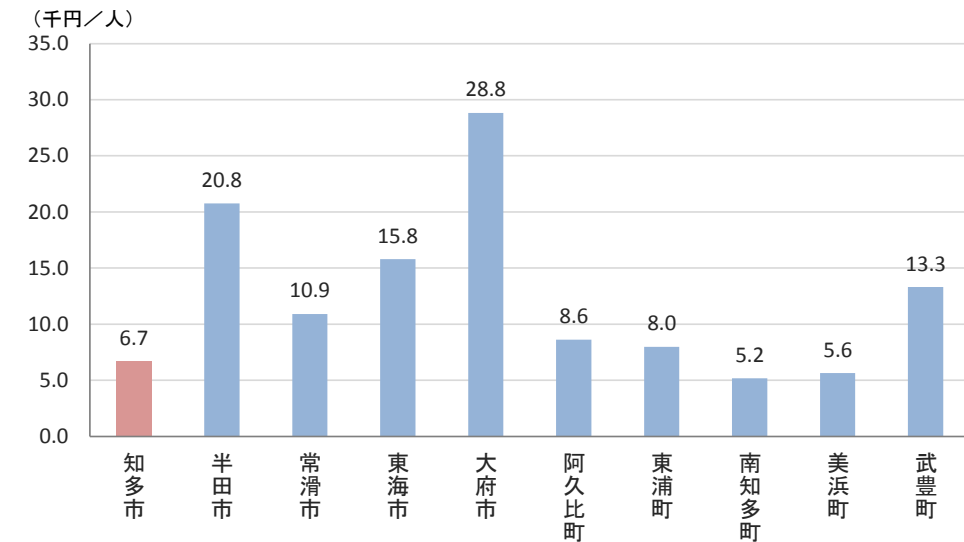


出典：経済センサス（経済産業省）

■財政

知多市の人口1人あたり法人市民税収は6.7千円であり、知多5市5町の市部で最も低く、大府市（28.8千円）の約1/4であり、大きな課題といえる。

【人口1人あたり法人市民税収（2016年）】



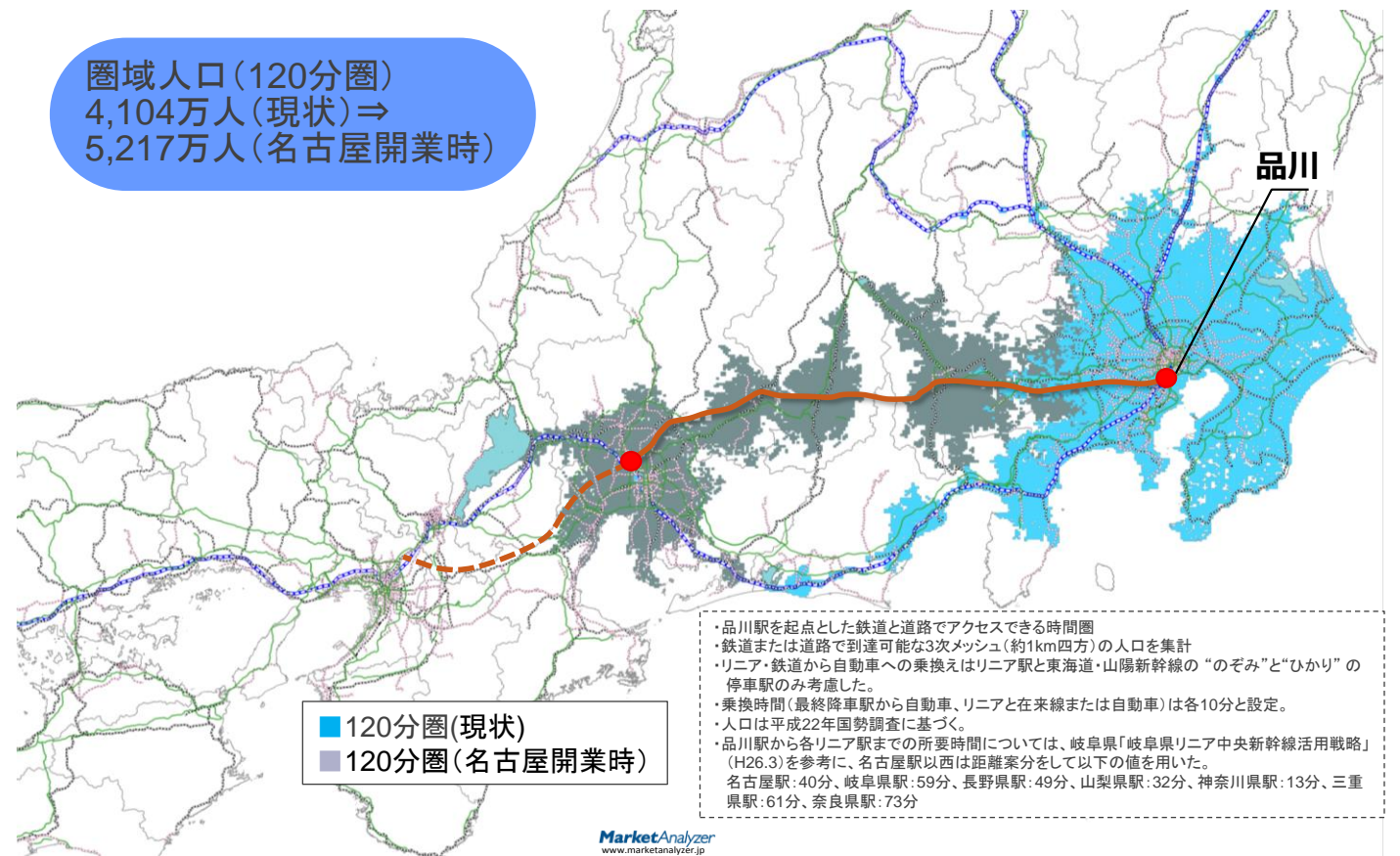
出典：市町村別決算状況調（総務省）

■リニア交流圏形成

2027年開業予定のリニア中央新幹線（品川—名古屋）による首都圏との時間短縮効果により、品川駅を起点とした圏域人口は約1,100万人増と大きく拡大することが見込まれ、今後、名古屋圏での地域づくりにその影響を取り込んでいくことが求められる。

知多市の主要駅である名鉄朝倉駅は名鉄名古屋駅から特急で20分という好立地にあり、リニア中央新幹線による活力を取り込んでいく期待があるが、名古屋駅から鉄道アクセス20分圏には競合する自治体が多く、差別化を図ることも求められる。

【リニア中央新幹線開業前後の圏域人口（品川起点、鉄道+道路）】



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)作成

【名古屋駅からの鉄道アクセス20分圏立地自治体】

都市	路線	駅	名古屋駅からの所要時間
刈谷市	JR 東海道線	刈谷	21分
安城市		安城	26分
春日井市	JR 中央線	高蔵寺	25分
岡崎市	名鉄名古屋本線	東岡崎	29分
岐阜市		名鉄岐阜	29分
犬山市	名鉄犬山線	犬山	25分
四日市市	近鉄本線	近鉄四日市	27分
知多市	名鉄常滑線	朝倉	20分

※所要時間は特急・快速の乗車時間